

屋久島永田浜

(やくしまながたはま)

位置：北緯30度24分、東経130度25分／標高：10m以下／面積：10ha／湿地のタイプ：砂浜海岸／保護の制度：国立公園特別保護地区特別地域／所在地：鹿児島県屋久島町／登録：2005年11月／国際登録基準：4

湿地のタイプ：砂浜海岸



前浜(手前)といなか浜

ウミガメの足跡

湿地の概要：

屋久島は九州の最南端から南方60kmにある周囲132km、面積5万ヘクタールの島である。屋久島永田浜は、屋久島北西部の「前浜」、「いなか浜」および約0.2kmの「四ツ瀬浜」の総称である。花崗岩が風化した粗い砂からなり、幅は約30mある。屋久島では数少ない、貴重な砂浜の海岸であり、国立公園区域に指定されている。

この小さな砂浜に毎年、アカウミガメが産卵にやってくる。屋久島永田浜は北太平洋地域でもっとも高密度にアカウミガメの産卵がおこなわれる海岸で、アカウミガメの生活史にとって重要な場所となっている。

アカウミガメの産卵：

アカウミガメは、産卵シーズンの5月～8月になると、夜9時ごろから浜に上陸をはじめ。100～140個の卵を砂の中に40分ほどかけて産卵する。産卵から2～3カ月後、ふ化した子ガメは海へと巣立つ。

保全の取り組み：

屋久島永田浜では、地域の人々により、「屋久島うみがめ研究会(現：NPO法人屋久島うみがめ館)」(1985年)や、「永田ウミガメ連絡協議会」(1996年)が組

織され、ウミガメの生態調査、浜の清掃、産卵・ふ化シーズンのパトロール、ウミガメ保護に関する普及啓発などがおこなわれている。このように屋久島永田浜では、地域の人々が主体となり、行政機関などとも協力して、ウミガメの保護および産卵・ふ化環境の保全とその適正な利用に関する取り組みがおこなわれている。

世界自然遺産の島：

屋久島は、里地の年間平均気温が20℃前後、降水量は4000mm以上で、樹齢1000年以上といわれる屋久スギに代表される原生自然と、海岸から山頂までの顕著な標高差に応じた植生の垂直分布が見られるという、特異な自然環境にある。1993年、世界自然遺産に登録され、年間約30万人の観光客が訪れる。島の人口は1万4000人。

【アカウミガメ】ウミガメ科の大型ウミガメ。体長70～100cm。大きなものは体重180kgにもなる。体色は赤褐色や黄褐色。貝類を食べ、頭部が頑丈で大きい。熱帯から温帯の海域に生息し、ウミガメのなかでもっとも北で産卵する。産卵時以外は海を回遊して生活しているが、その行動圏は、はっきりわかっていない。

●関係自治体

屋久島町役場 Tel: 0997-42-0100



浜に立てられた看板

